

プリント教材を使いながら 読み聞かせの教材として活用

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校

梶川 美穂



研究に向けた準備

私たちは、わいわい文庫が聴覚障害児の学習において、どのように活用できるのかについて研究をしてみました。

まず、研究の準備として、わいわい文庫の中から、事前にいくつかのマルチメディアDAISY図書を教師が実際に見て、どのような流れか、どれくらいの音量か、どんな読み方かを確認し、学習に使えるかどうかを確認してみました。

また、子どもたちには、CDやパソコンの操作について、ルールを作り確認しました。

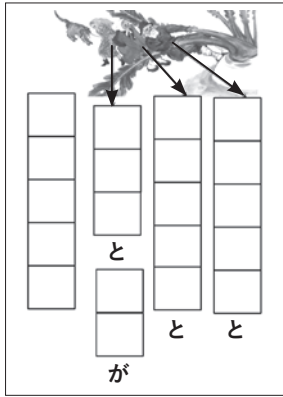
小学部1年生への実践

小学部1年の子ども（4名）への読み聞かせとして、学活や図書の授業のときに、ホームルーム教室でパ

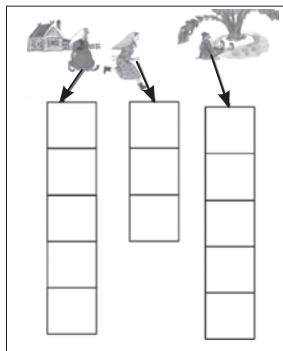
ソコンに大型テレビを接続して、『11ぴきのねこ』を見ました。

また、普通教室で、国語の授業（教師と子どもが1対1）のときに、『おおきなかぶ』（紙芝居風の作品）を使いました。まずは『おおきなかぶ』（紙芝居風の作品）をパソコンで見せて、（音量は0で）どんなお話なのか、子どもに手話で語らせました。

その後、この『おおきなかぶ』（紙芝居風の作品）の各場面の挿絵を使い、各場面を一文で表すプリントを作成し、それで登場してくるものの名前やお話の流れを書いて学習しました。



文で書くプリント



登場人物の名前を書くプリント

様子や効果

マルチメディアDAISY図書は、読み上げているところを黄色で表示してくれますが、現状の読み上げスピードでは、1年生は文字を追って内容を理解できないので、見ていてもわかりにくかったようです。

また、文字が多いページになり、文字が進んでいくと、挿絵の部分が見えなくなったりして、挿絵を見ながら文字を追っている1年生にはわ

かりにくかったです。

読んでいる声も重く平坦な感じがしたので、もう少し抑揚をつけて、子どもに明るく感じる声で読んでもらいたいです。

『おおきなかぶ』（紙芝居風の作品）を音量0で見せて、子どもに「これは何？」と聞くと、自分の知っている手話で話してくれました。（「おじいさん、無理」「やったー！」など）

パソコンの画面で連続的に進んでいくので、自由に語らせる場面では活用できると感じました。

教科書の挿絵より場面が細かく分かれているので、それぞれの場面に合わせた文を書いて学習することにより、話の流れがよくわかったと思います。

来年度へ向けて

読み聞かせは、2年生以上でも活用したいと考えています。また、現状の読み上げスピードで、理解できるか試してみたいと思います。

『おおきなかぶ』（紙芝居風の作品）の活用の際、子どもが書き込んだプリント（ワード）をiPadに取り入れて、自分が書いたお話を、連続して見られるようにしたいと考えています。

この小冊子をお読みの方で、なにか良い方法がありましたら、ご教示ください。